

Title	論語読書会
Author(s)	小田, 光男
Citation	中国研究集刊. 2016, 62, p. 143-145
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/61979">https://doi.org/10.18910/61979</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

〔研究会通信〕

## 論語読書会

小田光男

論語読書会は、二〇〇六年の春に始まった。韓国から中国留学を経て京都大学で学ぶ鄭増謨（チョン・ソンモ、現南京大学外国語学院副教授）が他大学の留学生たちと語らって鄭の下宿に集い、論語の音読と訓読を始めたところによる。

発会当時に用いられたテキストは、後藤点『論語』、および朱熹集註の本文であった。読書会は、テキストを現代中国語で音読し、日本語で訓読する訓練が中心であった。現代中国語で音読した目的は、古典を専門的に学ぼうとする学生たちにとって、古代語の音韻を知ることが必要であるために、現代語で音読して古代語との相違点を明確に意識に上せながら読むところにあった。日本語で訓読した理由は、日本で学ぶ留学生たちにとって日本語でペーパーを書くための訓練であった。日本語が

苦手な留学生たちに対しては、読書会に賛同した日本人の研究者が訓読をサポートしていた。

留学生たちは、日本で学び生活していたものの、一般の日本人と話し合う機会がなかなか得られなかった。そこで鄭は留学生に交流の機会を作り、また、学んだことを社会還元したいとの志を持って、論語読書会に社会人の参加を募った。現在の塾長である上田啓之（うえだ・ひろゆき）は当時国際会議場勤務であったが（現退職）、鄭の趣意に賛同して社会人として参加した。他に行政書士、主婦、教員、作曲家など、各方面から社会人の参加を得て、週一回の論語読書会に発展した。会場は、京都西陣の廃校となった小学校の教室を借りて行われるようになった。鄭の友人である台湾師範大学の張崑将先生や台湾大学中央研究所の林月恵先生が来京の折りには、参

加あるいは講義をいただいた。

ただ、院生たちは学業のみならず、生活のためのアルバイトに追われ、博士論文となれば読書会どころではなくなつた。また、日本国外に留学する者があり、また日本の大学を卒業した者もあり、そのときには会を離れていった。発会から五年を経て堯日第二十まで読み終えた時には、鄭もまた博士号を取得し帰国していた。現在の論語読書会は、その後を受けて大学人、社会人および学生たちが中心となつて続けられている。その間読書の幅を広げて、『孟子』の通読、英訳論語の通読も試みている次第である。

これまでの読書会の経過は、以下のようなものである。

二〇〇六年春～二〇一〇年八月 『論語』を通読完了

二〇一〇年八月～現在 『孟子』を通読中

二〇一一年四月～現在 『論語』二巡目の通読を、朱子『集注』の通読と併せて開始

二〇一三年四月～現在 James Legge英訳『論語』を通読する読書会を開始。京都烏丸御池「士心」を会場として、大学生が参加者の中心となっている。

塾長の上田の個人サイトにて、毎週の読書会の速記録

が綴られている。

<http://www.kyotozaq.ne.jp/dk&np700/koten/koten.htm>  
(サイト内の「論語読書会(有志)」の「経緯」各ページ)  
論語読書会の参加者はこの十年間に集まり散じて一定



「士心」での論語読書会

しないが、これまでの参加者のおおまかなりリストは以下のようなものであった。

《論語読書会発会人》

鄭澹謨（南京大学外国語学院副教授）

《現代表》

上田啓之（国際会議場定年退職）

《論語読書会同人（順不同）》

成田健太郎（東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣  
倫理財団寄付研究部門特任研究員）・高津友明・小田光  
男（合同会社Y o u A T）・安澤英治（行政書士）・川那  
辺恵津子（主婦、韓国文化研究会より）・中村典子（作  
曲家・京都市立芸術大学准教授）・稲垣裕史（大阪大谷  
大学専任講師）・大川沙織（高等学校教諭）・張崑崙（台  
湾師範大学教授）・田世民（京都大学院卒）・高井龍（日  
本学術振興会特別研究員P D／広島大学非常勤講師）・  
童嶺（南京大学文学部、京都大学留学／南京大学講師）・  
林月恵（台湾大学中央研究所）・沈相徳（京都大学卒／  
トクソー理研）・早川君（中国留学中）・北澤正敏（日本  
語教師中国在住）・津布良春輝（彦根東高校教諭）・林子

博（京都在大学院留学生）・李芝映（京都在大学院留学生）・  
姚嘉音（京都在大学院留学生）・大西保（国際会議場）・稲  
富雄亮（京都在大学院中文）・川津康弘（フリー）・張伯承  
（仏教大学留学）・寺澤一美（病院言語聴覚士）

最後に、論語読書会にふさわしく孔子の言葉の一つ挙  
げたい。

——子曰。有教無類。

（ピンイン：z i y u e , y o u j i a o w u l e i / 読み下し：子  
の曰く、教有りて類無し）。

老若男女、学生から社会人まで、国籍を問わずどのよ  
うな「類」の参加も歓迎するのが、学問都市である京都  
市を会場とする論語読書会である。